

ISSN 2186-0645

富山市埋蔵文化財調査報告 114

# 富山市今市遺跡発掘調査報告書

—中央富山線(No. 10～No. 15) 鉄塔建替工事に伴う発掘調査—

2024

富山市教育委員会  
北陸電力送配電株式会社

# 富山市今市遺跡発掘調査報告書

—中央富山線(No.10～No.15)鉄塔建替工事に伴う発掘調査—

2024

富山市教育委員会  
北陸電力送配電株式会社



調査区遠景 1(西から)



調査区遠景 2(南から)

## 例 言

1. 本書は富山県富山市に所在する今市遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、北陸電力送配電株式会社 富山支社用地部による中央富山線(No. 10 ～ No. 15) 鉄塔建替工事に伴う発掘調査である。
3. 調査は、北陸電力送配電株式会社 富山支社から日本海航測株式会社に発注し、富山市教育委員会 埋蔵文化財センターが監理のもと実施した。
4. 本書で報告する調査の概要は次のとおりである。

調査面積 256 m<sup>2</sup>

発掘調査期間 令和5年5月15日から令和5年6月30日

整理作業期間 令和5年7月3日から令和6年3月25日

監理担当者 堀内大介（富山市教育委員会 埋蔵文化財センター主幹学芸員）

発掘作業担当者 中井英策（日本海航測株式会社 専門員）

整理作業担当者 中井英策（日本海航測株式会社 専門員）

5. 自然科学分析はバリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し、その成果を第4章に掲載した。文中の図版番号は原文のままである。遺構番号(No.\*\*\*)はSK\*\*に読み替える。
6. 出土品及び原図・写真類は富山市教育委員会が保管している。
7. 本書の執筆は、第1・2章を堀内、第3・5章を中井が執筆した。編集は中井が行い文責は文末に記した。

## 凡 例

1. 調査で用いた座標は世界測地系 第VII系である。
2. 層序および遺物観察表で記載した色調は、監修：農林水産省農林水産技術会議事務局、色票監修：財団法人日本色彩研究所『新版標準土色帖』に拠る。
3. 遺構表記は溝・畑畝：SD、土坑：SK、柵列・塀：SA、掘立柱建物：SB、ピット：Pを用いた。
4. 挿図中の網掛けは次のとおりである。

遺構  地山

遺物  赤彩  煤・黒色処理

## 目次

第1章	調査の経過	1
第1節	調査に至る経過	1
第2節	発掘作業及び整理事業等の経過	1
第3節	周辺の調査状況	1
第2章	遺跡の位置と環境	3
第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3
第3章	調査の方法と成果	6
第1節	調査の方法	6
第2節	順序	7
第3節	遺構	8
第4節	遺物	15
第4章	自然科学分析	20
第5章	総括	24
第1節	近接する平成2年の調査から	24
第2節	今年度の調査の結果	24
	引用参考文献	26
	写真図版	27
	報告書抄録	37

## 挿図目次

第1図	調査区位置図 (S=1/5000)	2
第2図	周辺の遺跡	5
第3図	グリッド配置図	6
第4図	調査区全体図 (S=1/100)	7
第5図	基本土層図 (東壁・南壁) (S=1/50)	9
第6図	建物・構列配置図	10
第7図	SA153-2(SK157) 噴砂詳細図	11
第8図	SA99/153・SB141 エレベーション図 (S=1/80)	12
第9図	遺構図 (構列) (S=1/40)	13
第10図	遺構図 (建物) (S=1/40)	14
第11図	遺構出土土器 (S=1/3)	15
第12図	その他出土土器 (S=1/3)	16
第13図	調査標高比較図 (S=1/40)	24
第14図	平成2年度調査区 ・令和5年度調査区合成図 (S=1/3000)	25

## 付表

表1	土器観察表	17
表2-1	遺構観察表	18
表2-2	遺構観察表	19

## 写真図版

### 巻頭図版

調査区遠景1 (西から) 調査区遠景2 (南から)

### 遺構

写真図版1 調査区全景 垂直写真 (上から)  
写真図版2 SB141 垂直 (上から北)  
写真図版3 SB41 (南から)・SA99 (東から)  
写真図版4 SK157 堆積状況 (北から)  
SK157 と噴砂 (液状化痕 北から)  
写真図版5 東壁 (SD56・59 部分 西から)  
北東部溝完掘状況 (東から)

写真図版6 SK99 完掘状況(北から)・SK99 堆積状況(南から)  
SK90 完掘状況(北から)・SK90 堆積状況(西から)  
SK92 完掘状況(北から)・SK92 堆積状況(北西から)  
SK141 完掘状況(北から)・SK141 堆積状況(西から)  
写真図版7 SK136 完掘状況(北から)・SK136 堆積状況(北から)  
P126 完掘状況(北から)・P126 堆積状況(東から)  
SK113 完掘状況(北から)・SK113 堆積状況(南から)  
SK103 完掘状況(北から)・SK103 堆積状況(西から)

### 遺物

写真図版8 遺構出土遺物1・遺構出土遺物2  
・その他出土遺物 (須恵器)

写真図版9 その他出土遺物 (その他)

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査に至る経過

今市遺跡は、昭和63年～平成元年度に富山市教育委員会（以下、富山市教委）が実施した分布調査の結果を受け、平成5年刊行『富山市遺跡地図（改訂版）』に「今市遺跡」（No.201010）として掲載された。平成25年刊行『富山市遺跡地図』には、遺跡番号を「今市遺跡」（No.2010023）に変更して掲載された。今市遺跡の埋蔵文化財包蔵地面積は3,046,000㎡である。

令和3年11月、3基（No.11～13）の鉄塔建替工事について、北陸電力送配電株式会社と協議が行われた。3基とも対象地が埋蔵文化財包蔵地である今市遺跡に含まれており、試掘調査を実施することとした。令和4年7月8日付けで、埋蔵文化財の所在確認依頼書が提出された。本報告書の対象であるNo.11鉄塔については、同年11月9日に試掘調査を実施した。その結果、古代の溝・ピットなどを確認し、工事対象範囲全域256㎡で埋蔵文化財の所在を確認した。

### 第2節 発掘作業及び整理事業等の経過

**1. 発掘作業** 施主である北陸電力送配電株式会社と試掘調査の結果に基づき、埋蔵文化財の保護措置について協議した。鉄塔は恒久的な工作物であるため、工事対象範囲256㎡について記録保存のための発掘調査を行うこととした。

文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出は、施主から令和5年1月23日付けで富山市教委へ提出され、富山市教委の副申を付けて同年1月31日付け埋文125号で富山県教育委員会へ提出した。文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の報告は、富山市教委から同年6月13日に富山県教育委員会へ提出した。

発掘調査は、北陸電力送配電株式会社から委託を受けた日本海航測株式会社が令和5年5月15日～6月30日まで行い、富山市教委が調査を監理した。調査完了後、同年7月3日に現地を引き渡した。

**2. 整理事業** 現地調査終了後の令和5年7月3日から日本海航測株式会社で実施した。放射性炭素年代測定はバリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その成果は第4章に掲載した。併行して遺物写真撮影、原稿作成を行い、令和6年3月25日に本書を刊行した。（堀内・中井）

### 第3節 周辺の調査状況（第1図）

今市遺跡では広大な遺跡であるため、当該地区の寺島地区、隣接する八幡地区で行った調査について概観する。

#### <寺島地区>

平成2年、個人住宅建築に伴う発掘調査を実施した。古墳時代前期の柱穴、奈良～平安時代の竪穴建物、土坑、溝、柱穴、中世の溝などを検出し、古墳時代前期の古式土師器、奈良～平安時代の土師器・須恵器・土鍾などが出土した。

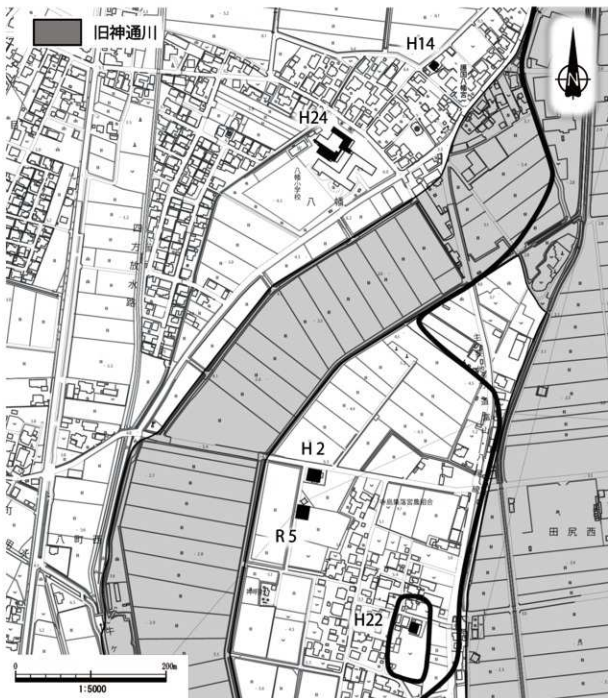
平成22年、個人住宅建築に伴う発掘調査を実施した。平安時代の竪穴建物1棟、鎌倉時代の薬研堀や土橋、大走りなどの館跡とされる遺構を確認した。寺島地区は、越中守護代神保氏の被官であった国人寺嶋氏の出自と伝わる土地で、その嫡矢となった勢力がこの地を基盤にこの館を築いたことが推測される（富山市教委2011）。東西60m、南北100mの範囲を埋蔵文化財包蔵地「寺島館跡(2)」として富山市遺跡地図に掲載した。

<八幡地区>

平成14年、個人住宅建築に伴う発掘調査を実施した。下層で弥生時代の土坑、古代の溝、戦国時代の採掘穴などを検出し、弥生土器、古代の土師器・須恵器、戦国時代の中世土師器・越前などが出土した。上層で江戸時代の畑跡を検出した（富山市教委2018）。

平成24年、八幡小学校体育館改築に伴う発掘調査を実施した。平安時代の竪穴建物3棟・掘立柱建物4棟・道路状遺構1条、江戸時代後期の区画溝・柱穴、近現代の土坑などを確認し、平安時代の土師器・須恵器、江戸時代後期の越中瀬戸・肥前系陶磁器などが出土した（富山市教委2013b）。

このように調査区周辺では、弥生～古墳時代には人々が住み始め、その後も平安時代～江戸時代にかけて連続と生活を営んでいたことがわかる。（堀内）



第1図 調査区位置図

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

今市遺跡は、呉羽丘陵の北西側に広がる射水平野東端、旧神通川の氾濫平野に位置する。今回の調査地は、富山市街地から北北西へ約5kmの富山市寺島地内に所在し、現在の神通川から西へ約2.1km、海岸江線から約2.7kmの旧神通川の中洲上に立地する。標高は5～6mである。

神通川は、弥生時代から江戸時代にかけて洪水によりその位置が変わっていたことが分かっている。弥生時代後期には打出地内を通り富山湾へと流れていた神通古古川がある。その後、西岩瀬の東を通る神通古川となった。さらには万治元年（1658）の大洪水で東岩瀬の西側に流れができ、その後寛文8～9年（1668～69）の洪水以後は現在の東岩瀬の西側が通る現在の神通川となったとされる。寺島の中州は、神通古古川や神通古川が流れていた頃に形成されたと考えられる。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺には、旧石器時代から近世に各時代の遺跡が所在する（第4図）。

旧石器時代は、北代台地の北西山裾にある小竹貝塚ではナイフ形石器が出土している。北代台地上にある北代遺跡（36）では、ナイフ形石器と斧形石器が出土している（西井・藤田1976）。

縄文時代前期には、縄文海進で広がった旧放生津湯の湖畔に貝塚を伴う集落が営まれた。小竹貝塚では、前期中葉～末葉に集落が形成された。集落に隣接する貝塚内に墓塚が造られ、縄文時代前期では全国最多の人骨が発見された（富山県財団2014）。小竹貝塚の東約750mに、前期後葉の「蜆ヶ森式土器」の標識遺跡である蜆ヶ森貝塚もある。現在の神通川底から掘り出された土砂から前期の土器が採集されており、神通川河口付近にも集落が存在した可能性が示唆されている（古川2005）。

縄文時代中期に入ると、北代台地上に集落が形成され、代表的な遺跡が国史跡北代遺跡である。高床建物を中心に約70種以上の竅穴住居が取り巻く集落形態を取る（富山市教委1998）。北代加茂下Ⅲ遺跡（33）では、柱列が二重に巡る14本以上の柱を持つ特異な建物を確認した（堀沢1996・1997）。縄文時代後・晩期にも、北代台地上には北代遺跡や長岡杉林遺跡（46）などで集落が営まれる。長岡八町遺跡（30）では、谷地形から後期～晩期の大量の縄文土器とともに大型の土偶、石棒、石刀、御物石器など祭祀関係遺物が出土した（富山市教委・環境事業団2003）。

弥生時代前期から中期にかけては、神通古古川左岸の打出遺跡などが知られるが、散発的に確認される程度である。

弥生時代中期から古墳時代前期にかけては、遺跡数が増加し、神通古古川流域では、集落が営まれる。右岸に四方背戸割遺跡（戸水B式～古府クルビ式）（3）、永代割遺跡（猫橋式～古府クルビ式）（8）など、左岸に打出遺跡（法仏式～高畠式）（9）などの集落遺跡がある。打出遺跡では、畿内との関係の深い三連壺や県内最多の鉄器が出土し、神通川下流域の拠点集落であったと推測した（富山市教委2006b）。呉羽丘陵上には多数の墳墓や古墳が造られた。呉羽丘陵北端部には、百塚遺跡（14）・百塚住吉遺跡（17）があり、方形周溝墓や前方後方墳、前方後円墳等28基を発掘し、「百塚古墳群（13）」の存在を確認した（富山市教委2009・2012）。百塚古墳群の南西約1kmには、古墳時代初期の造営とされる杉坂古墳群（55）がある。さらに杉坂古墳群の南南西約0.4kmに古墳時代前期の円墳と考えられる番神山古墳が発見された（富山市教委2020）。

古墳時代後期には、番神山横穴墓群や金屋陣ノ穴横穴墓群などの群集墳が造られる。番神山横穴墓群では、昭和期に発見された15基に加え9基が新たに発見された。B9号墓からは、馬具4点（大型



矩形立環状鏡板付轡1、鉸貝2、飾金具1）が出土し、上位階級の被葬者の存在が示唆された（富山市教委 2022）。百塚遺跡ではこの時期にも円墳が造られ、円墳の周溝内埋葬施設に馬のハミが副葬され、他地域に先んじて馬を所有した有力者がいたと考えられる（富山市教委 2012）。

古代には、呉羽丘陵北西部に古代射水郡「寒江郷」の存在が推測されている（根津 2006）。北代遺跡、百塚住吉D遺跡（20）、本遺跡などがその開墾集落と考えられる。長岡杉林遺跡では、緑釉陶器、灰釉陶器に加え、瓦塔などの仏教遺物も出土し、古代「寒江郷」の中心的な集落と考えられる（富山市教委 1987）。百塚住吉D遺跡では、7世紀後半～9世紀の堅穴建物、掘立柱建物、大型土坑など古代「寒江郷」の集落の遺構を検出した。特に2基の大型土坑は馬小屋と推測されている（富山県農林センター・富山市教委 2012）。ハヶ山A遺跡（23）では、8世紀後半～9世紀の区画溝、井戸、土坑などを検出した。区画溝は、周辺の百塚住吉D遺跡や八町II遺跡の遺構と同一方向であることから、周辺と同じ地割となっていたと考えられる（富山市教委 2015）。平安時代の道路跡が、今市遺跡（南西-北東方向）、打出遺跡（北西-南東方向）で検出し、両遺跡の間で交わると推定した（富山市教委 2013b、県財団 2015）。

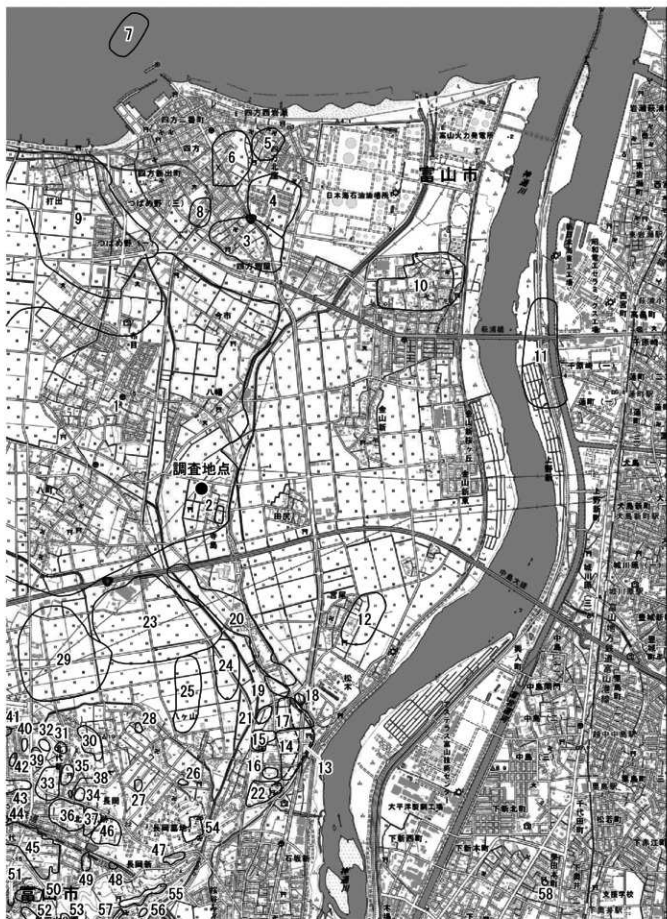
中世になると、神通川左岸には中世の遺跡が集中する。この辺りは、室町時代頃に成立した『廻船式目』にみえる十大港（三津七湊）の一つである「越中岩瀬湊」の有力候補地とされる。四方荒屋遺跡、四方北窪遺跡や打出遺跡などでは中国製陶磁器の出土や屋敷跡などを確認し、港湾都市的な性格が考えられている（中世岩瀬湊調査研究グループ 2004）。八町II遺跡（29）では、鎌倉時代～室町時代の集落を確認し、区画溝や多数の井戸が検出し、千鳥紋を施した漆器なども出土することから京都下鴨神社領「寒江荘」の中核的な集落と考えられている（富山市教委 2008b）。

千原崎遺跡（11）では、17世紀前半（1期）、17世紀後半～18世紀前半（2期）の江戸時代の集落が確認された。2期の集落は寛文8～9年の洪水以後「千原崎の渡し」が置かれたことに伴い、港町宿場的な性格に変化した集落と考えられる（富山市教委 1996・1999b）。ハヶ山地内に富山藩主前田家墓所（長岡御廟所）が造営される。加賀藩より富山藩10万石を与えられた前田利次は、立藩の際に百塚の地に新城を造ることを願ひ出て許可をされ、「百塚侍従」と呼ばれた。しかし、百塚築城は財政的に叶わず、二代正甫が亡父の念願であった百塚城予定地近くに利次を葬り、以後この場所が富山藩歴代藩主の墓所になった（古川・野垣・小林・蓮沼 2010）。

（堀内）

#### 遺跡名一覧（第1図）

- 1: 今市遺跡 2: 寺島館跡 3: 四方背戸割遺跡 4: 四方荒屋遺跡 5: 四方北窪遺跡 6: 四方西野割遺跡  
 7: 四方沖海底遺跡 8: 江代割遺跡 9: 打出遺跡 10: 草島遺跡 11: 千原崎遺跡 12: 宮尾遺跡 13: 百塚古墳群  
 14: 百塚遺跡 15: 百塚B遺跡 16: 百塚鍵割遺跡 17: 百塚住吉遺跡 18: 百塚住吉B遺跡 19: 百塚住吉C遺跡  
 20: 百塚住吉D遺跡 21: 百塚住吉E遺跡 22: ハヶ山遺跡 23: ハヶ山A遺跡 24: ハヶ山B遺跡 25: ハヶ山C遺跡  
 26: ハヶ山林窟跡 27: 八町C遺跡 28: 八町D遺跡 29: 八町I遺跡 30: 長岡八町遺跡 31: 北代加茂下I遺跡  
 32: 北代加茂下II遺跡 33: 北代加茂下III遺跡 34: 北代加茂下IV遺跡 35: 北代加茂神社遺跡 36: 北代遺跡  
 37: 北代東遺跡 38: 北代大畑II遺跡 39: 北代中谷遺跡 40: 北代中谷II遺跡 41: 北代村巻I遺跡  
 42: 北代村巻IV遺跡 43: 北代村巻V遺跡 44: 北代シャクドジ遺跡 45: 吳羽富田町遺跡 46: 長岡杉林遺跡  
 47: 長岡新遺跡 48: 北代一万歩遺跡 49: 北代南田測遺跡 50: 茶屋町遺跡 51: 北代西山遺跡 52: 北代西山I遺跡  
 53: 北代平野遺跡 54: 富山藩主前田家墓所（長岡御廟所） 55: 杉坂古墳群 56: 長慶寺古墳 57: 五百羅漢  
 58: 奥田神社遺跡

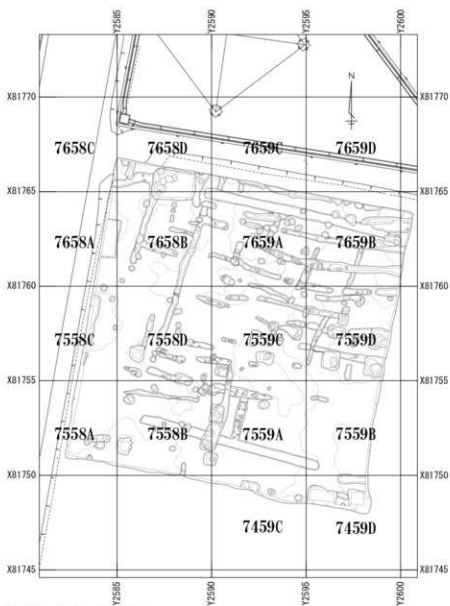


第2図 周辺の道跡

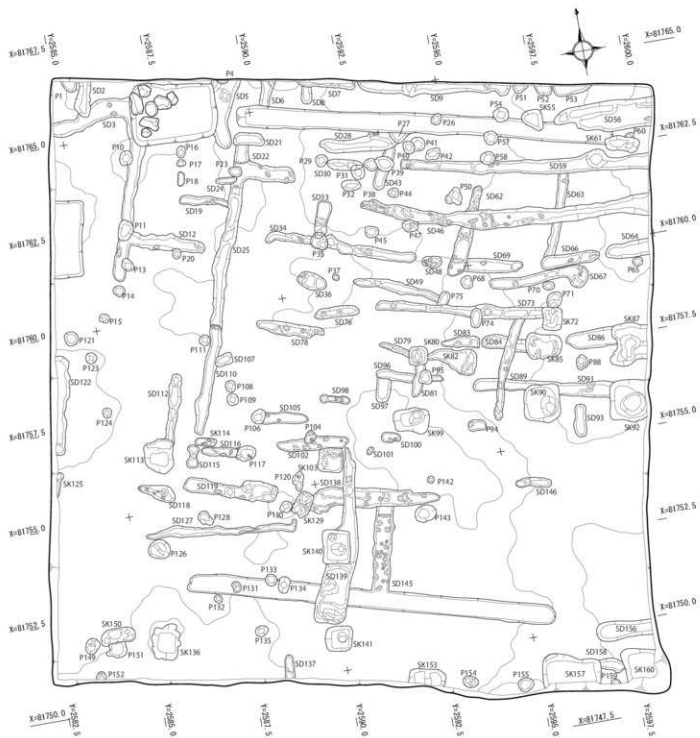
## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

表土掘削は重機を用い、II層下面まで掘削しIV層上面で遺構の検出をする。調査区グリッドの設定および名称は座標の百と十の位をXYの順に並べ基準とし、10mをアルファベットで4分割し末尾に付与した。(第3図)遺構番号は通し番号による。遺構の種類は整理段階でそれぞれに付与した。遺構の実測は手実測と写真計測によって行った。同時にスマートフォン(iPhone12PROMAX)のLiDARによるデータの取得も行い検証を行いながら図化に活用した。写真撮影はデジタルカメラ(CanonEOS5DMark IV)を用いてJpeg/RAWデータの取得をした。



第3図 グリッド配置図



第4図 調査区全体図 (S=1/100)

## 第2節 層序(第5図)

調査地は標高5mの自然堤防上に位置する寺島集落の西側に位置し、地籍から北流する旧流路が東へと向きを変えるように読み取れる標高2mほどの落ち込みに臨む緩やかな斜面上に位置する。神通川による氾濫原上の自然堤防に相当し、基本的な地質は砂質に近い沖積地の堆積である。調査地が位置する区画は畑として利用されており標高5.2mの平坦地である。

**I層** 10YR5/1 褐灰色土 現耕作土である。

**II層** 10YR3/4 暗褐色土 旧耕作土である。調査区の位置する耕作地は一時期水田として利用されたこともあると聞いている。この水田利用時にIII・IV層に及ぶ水平にするための削平がなされたと考えられる。

- Ⅲ層** 10YR4/3 にぶい黄褐色土。旧耕作土である。調査区の東では削平されて消失する傾向にある。
- Ⅲ'・Ⅲ''層** Ⅱ層とⅢ・Ⅳ層の混合土である。遺構の埋土に相当するが耕作の遺構を示すものではよくこなれた状況を示し(Ⅲ')、整地層の様相を示す箇所ではⅣ層の土が比較的大きなブロック・粒度で混じる。(Ⅲ'')
- Ⅳ層** 10YR4/6 褐色土。地山である。粘質シルトから深度を増すごとに砂質が強くなる。砂質が強い深度では液状化の痕跡が見られる。液状化の痕跡が見られる場所では土壌の還元傾向も見られ土色が青みを増す。

### 第3節 遺構

#### 1. ビット (P)

ビットは73基検出した。そのうち掘立柱建物の柱穴としたものが1基ある。その他はいずれも埋納や構造物構築のためのものではなく、耕作時のものと考えられる。詳細は表2に記載する。

#### 2. 溝 (SD)

溝は長短あわせて61条検出した。いずれも畑作に伴う畝と考えられる。南北方向のものは東西方向の畝に切られる傾向にある。同一のものが途切れるものが多いがⅣ層に至る深度の不揃いな溝底によるものでⅡ層形成に伴う削平が当時の地山面に及ぶことを示している。詳細は表2に記載する。

#### 3. 土坑 (SK)

土坑としたものは22基を検出した。そのうち柵列の柱穴としたものは9基、掘立柱建物の柱穴としたものが5基である。その他に特筆する土坑は検出できなかった。いずれも畝溝の崩れた状況を呈し、坑底には鋤跡による不定形のくぼみが見られる。

**SK55** 7659B区に位置する。幅は54cm、長さは60cm、深さは35cmを測る。堆積土は10YR3/4 暗褐色土である。

**SK61** 7659B区に位置する。幅は42cm、長さは92cm、深さは27cmを測る。堆積土は10YR2/3 黒褐色土である。

**SK72** 7559D区に位置する。幅は52cm、長さは62cm、深さは17cmを測る。堆積土は10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6 褐色土(地山土) 小粒10%含む

**SK82** 7559C区に位置する。幅は68cm、長さは132cm、深さは5~7cmを測る。堆積土は10YR3/4 暗褐色土である。

**SK114** 7558D区に位置する。幅は22cm、長さは58cm、深さは6cmを測る。堆積土は10YR3/4 暗褐色土に10YR4/6 褐色土(地山土) 小粒40%含む。

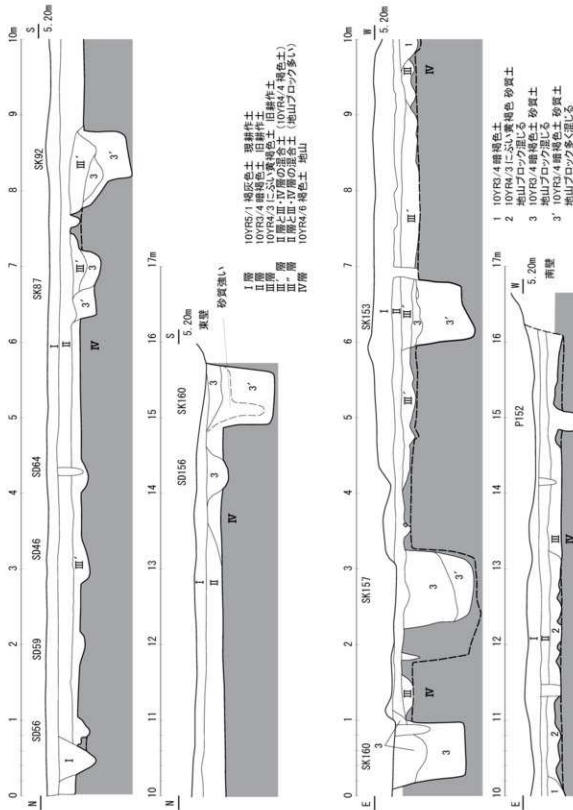
**SK125** 7558C区に位置する。幅は14cm、長さは22cm、深さは12cmを測る。堆積土は10YR4/3 にぶい黄褐色土である。

**SK129** 7558B区に位置する。幅は46cm、長さは66cm、深さは7cmを測る。堆積土は10YR3/3 暗褐色土に10YR4/6 褐色土(地山土) 小粒10%含む。

#### 4. 柵列・塀 (SA) (第6・8・9図)

区割りの施設の中でも目隠しの機能を持つものは塀として扱われる。ここでは上部構造が不明であることから柵列としているが塀である可能性もある。枠控柱を擁する塀には社寺に使われている源氏塀のような板塀が挙げられる。

**SA99** 7559C~D区に位置し、W-6<sup>南</sup>-Nの東西方向の柵列である。2間(SK99-SK90-SK92)を確認し、東



側は調査区外に延びる。枠控柱が北側1.5 mに確認でき、主柱間は西側が柱痕間で3.5 mを測り、東側は柱痕間2.2 mを測る。

**SA99-1a(SK99)** 幅は66cm、長さは96cm、深さは83cmを測る。堆積土は10YR2/3黒褐色土である。底面に円形の10YR2/1黒色土の薄い層が認められ、柱痕跡と考えられる。

**SA99-1b(SK80)** SA99-1aの控柱である。幅は49cm、長さは49cm、深さは29cmを測る。堆積土は10YR3/3暗褐色土で底面には10YR4/6褐色土(地山土)大粒が混じる。

**SA99-2a(SK90)** 幅は96cm、長さは101cm、深さは75cmを測る。堆積土は10YR2/3黒褐色土である。底面に円形の10YR2/1黒色土の薄い層が認められ、柱痕跡と考えられる。

**SA99-2b(SK85)** SA99-2aの控柱である。幅は70cm、長さは98cm、深さは13～21cmを測る。堆積土は10YR3/4暗褐色土で10YR4/6褐色土(地山土)小粒10%含む。

**SA99-3a(SK92)** 幅は98cm、長さは112cm、深さは72cmを測る。比較的整った方形を呈し、SD91を切る。堆積土は10YR2/3黒褐色土で底面に円形の10YR2/1黒色土の薄い層が認められ、柱痕と考えられる。

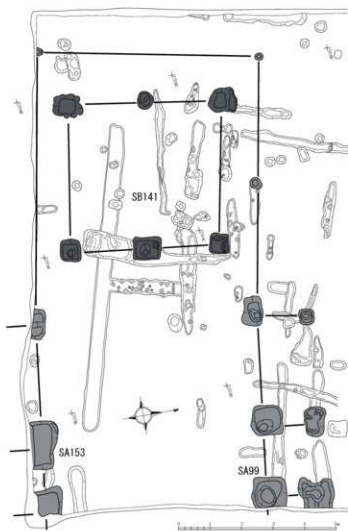
**SA99-3b(SK87)** SA99-3aの控柱である。幅は96cm、長さは116cm、深さは20～30cmを測る。堆積土は10YR3/3暗褐色土である。SD86を切る。

**SA153** 7559C～D区に位置する。2間(SK153-SK157-SK160)を検出した。西から3.5 m-2 mの柱間を測る。SB141の東西主軸線を中心にSA99とは7 m離れた対称の位置にある。また柵列に挟まれた空間に遺構は希薄で、東壁ではII層が地山に接し削平に伴うとみられる敷き均しと考えられる。

**SA153-1(SK153)** 7559C区に位置する。幅は44cm、長さは96cm、深さは78cmを測る。堆積土は10YR3/4暗褐色砂質土である。

**SA153-2(SK157)** (第17図) 幅は79cm、長さは154cm、深さは82cmを測る。堆積土は10YR3/4暗褐色砂質土である。地山には下向きに粒度が荒く遷移する液状化の痕跡を認められる。遺構はこの液状化の痕跡を切っている。

**SA153-3(SK160)** 7559D区に位置する。幅は84cm、長さは90cm、深さは65cmを測る。堆積土は10YR3/4暗褐色砂質土である。須恵器の甕口縁(9)が検出面直近で検出されている。



第6図 建物・柵列配置図

## 5. 小結

柵列の主柱は痕跡から30cm近い太さの円柱である。掘方は古代の柱を思わせる大きな隅丸方形であるが断面に柱を安定させるために見える突き固めや柱が腐朽して消滅した痕跡が全く見当たらない、さらに柱が抜かれていると仮定して後に埋積する土が断面で観察できない。埋土はⅡ層に近似した土質である。また、柱の当り面にはⅡ層に属すると考えられる黒色土がスタンプのように検出されるという状況であった。さらに調査区東壁からは柵列の掘り方はⅡ層から掘りこまれている様子が観察できる。このことからⅡ層の時期に機械力による柱根の解体・引き抜きであると捉え、攪乱の類だとしていた。しかし、柱の当り面があり柱の存在が確認できたことや掘立柱建物との関連から柵列(塼)として再考した。

時期について詳細を得ることはできなかった。

## 液状化(噴砂)について

これについて少し言及すると噴砂は液状化の結果、地表面の弱線(溝やピットなど)をめがけて液状化した砂礫層が噴出したものである。地面が波打つ、泥水が噴き出す等の地表に現れた現象は文献記録として、または遺物を伴う埋没した地表面から時期の決定が可能であるが、地表に至らない液状化は人目に触れず地震のたびに更新される可能性が高いと考える。これらのことを踏まえ、これまでの近隣の調査で確認された噴砂・液状化を列挙する。

弥生時代終末期	豊田大塚・中吉原遺跡
貞観地震(863)	四方背戸割遺跡
天正地震(1586)	四方背戸割遺跡・打出遺跡
飛越地震(1858)	四方背戸割遺跡・打出遺跡

SA153が古代の遺構とすると貞観地震が遺構の時期に近いと言え、地震以後9世紀後半の建物の可能性がある。遺構の時期決定の参考になるだろう。

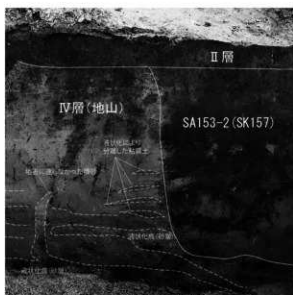
## 6. 掘立柱建物(SB)(第6・8・10図)

SB141 図上2×1の構造を持つ正方形プランの建物である。前述のSA99とSA153に挟まれた空間に東面する建物である。庇の張り出しを考えると東辺は柵列の西側にほぼ接していたと考えられる。柱穴の配置から桁行と考えられる方向はE-10°-Nで桁間は芯々で4.5mと長く、梁間は約半分の2.4mを測る。このことから桁行に間柱があった可能性も捨てきれない。(P117・P135)

柵列に挟まれた空間は配置状況からこの建物に付帯する可能性が高いと考えられる。

SB141-1(SK141) 幅は66cm、長さは71cm、深さは82cmを測る。底面に径30cm、深さ20cmほどの柱痕が認められる。堆積土は10YR3/4暗褐色土で10YR4/6褐色土(地山土)中粒40%含む

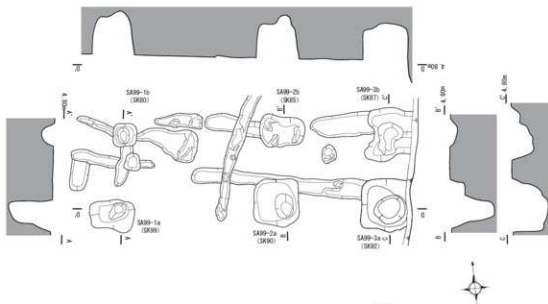
SB141-2(SK136) 幅は80cm、長さは96cm、深さは89cmを測る。堆積土は10YR4/3にぶい黄褐色土である。



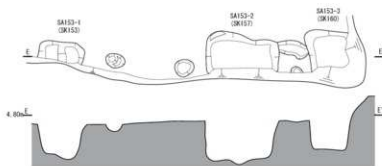
第7図 SA153-2(SK157)噴砂詳細図



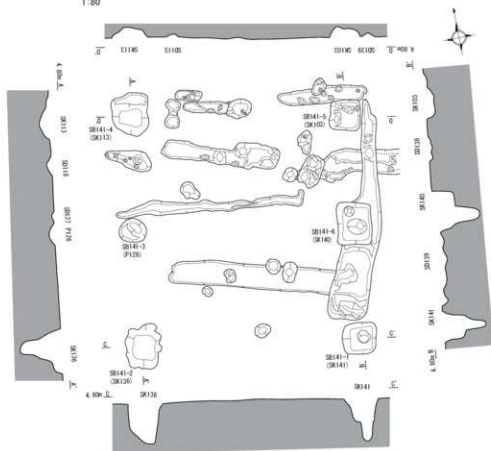
SA99



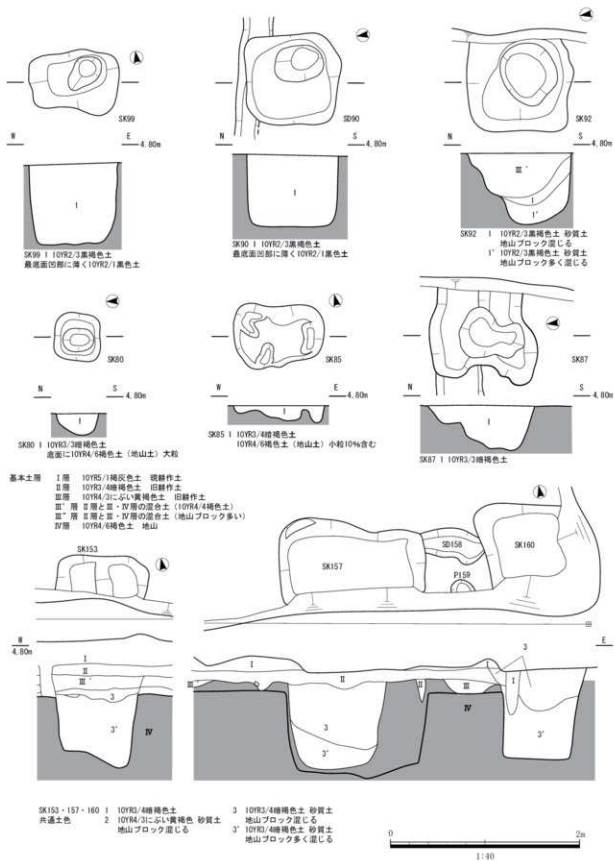
SA153



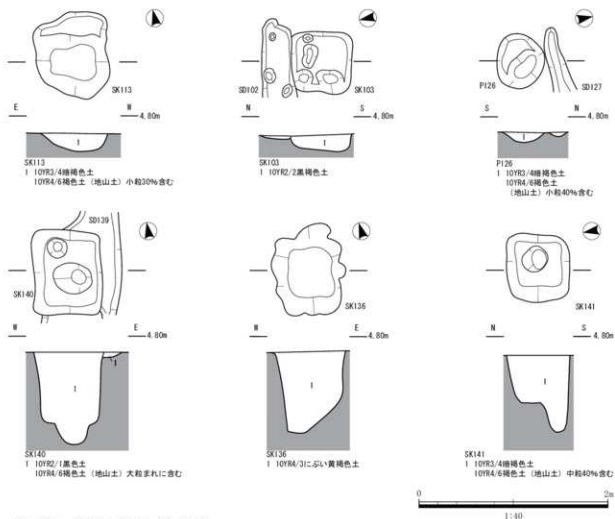
SB141



第8図 SA99/153・SB141エレベーション図(S=1/80)



第9図 遺構図(挿別) (S=1/40)



第10図 遺構図(建物) (S=1/40)

SB141-3(P126) 幅は54cm、長さは58cm、深さは13cmを測る。堆積土は10YR3/4暗褐色土で10YR4/6褐色土(地山土)小粒40%含む。

SB141-4(SK113) 幅は78cm、長さは91cm、深さは22cmを測る。堆積土は10YR3/4暗褐色土で10YR4/6褐色土(地山土)小粒30%含む。

SB103-5(SK103) 幅は64cm、長さは66cm、深さは19cmを測る。堆積土は10YR2/2黒褐色土である。SD102に切られる。

SB141-6(SK140) 幅は72cm、長さは90cm、深さは78cmを測る。底面に径30cm深さ10cmほどの柱痕が認められる。堆積土は10YR2/1黒色土で10YR4/6褐色土(地山土)大粒をまれに含む。SD139を切る。

## 7. 小結

建物の柱穴内の埋積土は柵列に類似した状況であることから柵列とは同時期と考える。柵列は方向と配置の状況からSB141に付帯する施設の可能性が高い。さらに柵列に挟まれた空間は方形の建物に導く通路的な性格、あるいは前庭としての機能が窺える。配置から類推するとこの建物は社である可能性も考えられる。(辻本和美 2010) 建物が社である場合では桁行が東西方向では妻入になり棟持ち柱の位置が正面中央になることから考えにくく、桁行を南北方向の二間社とするのが妥当であろう。

建物の時期については、遺構に伴う遺物の出土が皆無であったためにここでは不明と結論せざるを得ない。

(中井)

## 第4節 遺物

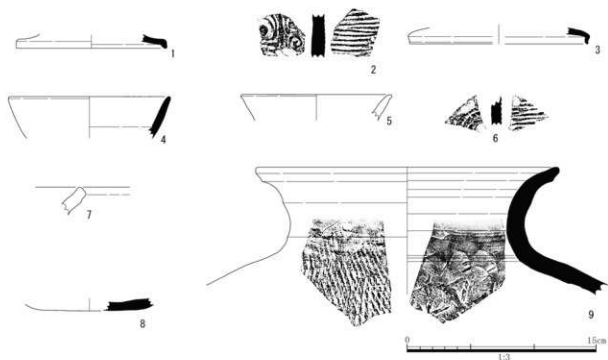
## 1. 遺構出土土器 (第11図)

1(P50)は須恵器の蓋である。口径は11.8cmを測る。2(SD56)は須恵器の胴部細片である。器種は甕であろう。外面はタタキ、内面に当て具痕が見られる。3(SD56)は須恵器の蓋である。復元口径は14.0cmを測る。4(SD73)は須恵器坏の口縁である。復元口径は12.6cmを測る。5(SK92)は土師器碗の口縁である。復元口径は11.8cmを測る。6(SK92)は須恵器の胴部細片である。器種は甕であろう。外面にタタキ、内面に当て具痕が見られる。7(SD138)は土師器の口縁部である。細片で器種の詳細は不明だが甕か壺であろう。内外にナデを施す。8(SD158)は須恵器坏A類の底部である。9(SK160)は須恵器壺の口縁である。内外面にタタキが見られる。1・3～5、7～9は8～9世紀である。

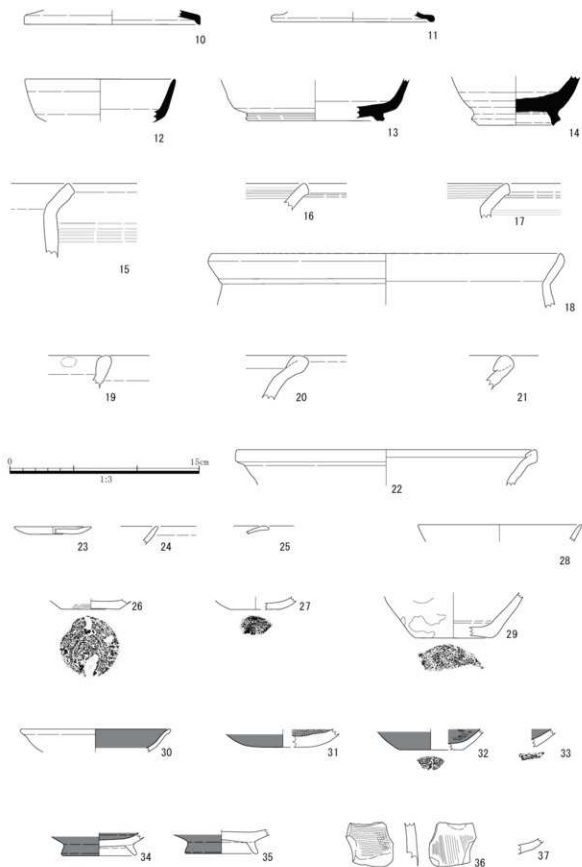
## 2. その他出土土器 (第12図)

12は須恵器坏身である。口径は11.8cmを測る。11は須恵器の坏蓋である。口径は12.6cmを測る。10は須恵器の坏蓋である。口径は14.0cmを測る。焼成不良で土師質を呈する。14は須恵器小型瓶の底部である。底径は6.0cmを測る。13は須恵器坏B類である。底径は12.6cmを測る。15～22は外面にカキメを施す土師器甕の口縁である。15～18は口縁端部外面が面をなし、19～20は端部を内側に折り返し端部を丸く収める。23は中世土師器皿である。口径6.1cmを測る。24は土師器碗の口縁部である。細片で口径不明。25は土師器碗、あるいは皿の口縁部である。細片で詳細不明。26は土師器碗の底部である。回転糸切りを認める。底径は4.6cmを測る。27は土師器碗、あるいは皿の底部である。回転糸切りを認める。底径は4.0cmを復元する。28は土師器碗の口縁部である。口径11.8cmを復元する。29は土師器小型甕の底部であろう。回転糸切りを認め、被熱痕がある。30～35は赤彩の碗・皿である。31は内面が黒色、外面は赤彩である。32は回転糸切りと内外面に赤彩が認められる。34・35は皿であろう。36は土師器片である。カキメが認められることから甕の胴部であろう。37は陶器の細片である。内面に灰軸が認められる。

(中井)



第11図 遺構出土土器 (S=1/3)



第12図 その他出土土器(S=1/3)

表 1. 土器観察表

調査年 調査期	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区	調査地 調査区
1	1950	2000K	調査地	集	19.8	-	1060	-	-	03007子	03007子	1070613原出 集	1070613原出	1070613原出	集	口1.13		9					
2	2004	200817	調査地	集	-	-	-	-	平肉の多い 黒山内神木田	03007子	1070613原出-黒山 集。赤黒混 り。赤黒混	10617原出	10617原出	集	口部中央	幅5.2	10						
3	2004	200817	調査地	集	7.60	-	11.3	-	-	03007子	1070613原出	10617原出	10617原出	集	口1.15以下	幅縁部	11						
4	2013	200820	調査地	集	10.8	-	13.3	-	-	03007子	10617原出	10617原出	10617原出	集	口1.13		10						
5	1949	200817	調査地	集	19.8	-	12.6	-	-	03007子	1070613原出	1070613原出	1070613原出	集	口1.13		10						
6	1949	200817	調査地	集	-	-	-	-	平肉の多い 黒山内神木田 (集)	1070613原出	1070613原出	23017原出	1070613原出	集	口部中央	幅5.2	10						
7	2013K	200817	調査地	集・赤土	-	-	12.3	-	-	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下		11						
8	2013K	200817	調査地	集・赤土	-	8.4	10	-	-	03007子-平肉 赤土	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	平	幅5.13		10						
9	2013K	200817	調査地	集	23.1	-	10.11	19.8	-	03007子-赤土 03007子-赤土	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.13以下 幅5.13	幅5.1	11						
10	調査 期間	200820	調査地	集	14	-	13.5	-	黒縁平肌	黒縁平肌	1070613原出	1070613原出	1070613原出	平	幅5.13		10						
11	7月 調査 期間	2010	調査地	集	12.6	-	10.6	-	-	03007子	1070613原出 集	1070613原出	1070613原出	集	口1.13		14						
12	調査 期間	200820	調査地	集・赤土	11.8	-	13.4	-	-	7子	1070613原出 集多	23017原出	23017原出	集	口1.15以下		11						
13	調査 期間	200820	調査地	集・赤土	-	11	12.5	-	-	03007子-平肉 赤土	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	平	幅5.13		10						
14	7月 調査 期間	2010	調査地	赤土	-	8	13.0	-	-	03007子-平肉 赤土	1070613原出 集多	1070613原出	23017原出	集	幅4.12		7						
15	7月 調査 期間	2010	調査地	集	-	-	15.1	-	-	7子-赤土	7子	1070613原出 集多	1070613原出	集	口1.15以下	幅縁部	10						
16	調査 期間	200820	調査地	集	-	-	12.0	-	-	赤土	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下	幅縁部	10						
17	調査 期間	200820	調査地	集	-	-	12.6	-	-	7子-赤土	7子	1070613原出 集多	1070613原出	集	口1.15以下	No.272 同一層	11						
18	調査 期間	200820	調査地	集	27.6	-	14.3	19	-	ハテ	ハテ	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅縁部 幅5.13	幅縁部	10					
19	調査 期間	200820	調査地	集	-	-	12.6	-	-	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下	幅縁部	10						
20	調査 期間	200820	調査地	集	-	-	13.3	-	-	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下		4						
21	調査 期間	200820	調査地	集	-	-	12.0	-	-	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下		10						
22	調査 期間	200820	調査地	集	23.1	-	12.6	-	-	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下		10						
23	調査 期間	200820	調査地	赤土	8.1	4	0.4	-	-	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下 幅5.13		11						
24	調査 期間 2010 7月	2010	調査地	集	-	-	11.4	-	-	03007子-7子	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下		9					
25	調査 期間	200820	調査地	集・赤土	-	-	10.6	-	-	7子	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下		10					
26	調査 期間	200820	調査地	集	-	48	13.1	-	-	ハテ赤土	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅5.13		9					
27	調査 期間	200820	調査地	集・赤土	-	4	13.1	-	-	7子	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅5.13		10					
28	調査 期間	200820	調査地	集	11.6	-	10.3	-	-	7子	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.15以下		10					
29	調査 期間	200820	調査地	赤土	-	8	13.3	-	-	7子 黒縁平肌赤土	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅5.13		10					
30	調査 期間	200820	調査地	集	10.1	-	10.6	-	-	黒縁平肌	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	口1.13		10					
31	調査 期間	200820	調査地	赤土	-	4	12.4	-	-	黒縁平肌	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅5.13以下		10					
32	調査 期間	200820	調査地	集	-	5.2	11.1	-	-	黒縁平肌	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅5.13		10					
33	調査 期間	200820	調査地	集	-	-	11.4	-	-	ハテ赤土	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅5.13以下		10					
34	調査 期間	200820	調査地	赤土	-	3.0	1.9	-	-	03007子-黒土 赤土	03007子-黒土	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅4.13		1					
35	7月 調査 期間	2010	調査地	集	-	3.0	1.9	-	-	7子	黒縁平肌	1070613原出 集多	23017原出	23017原出	集	幅5.13		10					
36	7月 調査 期間	2010	調査地	集・赤土	-	-	13.0	-	-	7子	1070613原出 集多	1070613原出	1070613原出	集	幅縁部中央		10						
37	調査 期間	200820	調査地	赤土	-	-	11.0	-	-	03007子	03007子	10617原出	1070613原出	1070613原出	集	幅縁部中央		11					

表 2-1 遺構観察表

遺構 番号	地区	幅 (幅数 cm)	長さ (長軸 cm)	深さ (m)	方向	土色	備考
F1	7658D	28	40	0	-	10YR3/3暗褐色土 地山ブロック	
S02	7658D	44	94	19.0	N-12.5'-E	10YR3/3暗褐色土 地山中粒含む	
S03	7658D	246	324	10.0	N-18'-E	10YR3/4暗褐色土	
P4	7658D	9	32	22	-	10YR2/3黒褐色土	
S05	7658D	56	183	16	N-17'-W	10YR3/4暗褐色土	
S06	7659C	39	66	9	N-17.5'-E	10YR3/3暗褐色土	
S07	7659C	18	153	7	N-77'-W	10YR3/3暗褐色土	
S08	7659C	28	46	9	N-7'-E	10YR3/4暗褐色土	
S09	7659A, B, C	32	404	8	N-18.5'-W	10YR3/4暗褐色土	
F10	7658B	26	38	38	-	10YR3/3暗褐色土	
F11	7658B	40	54	23	-	10YR3/3暗褐色土	
SD12	7658B	138	230	8~21	N-24'-W	10YR3/3暗褐色土	
F13	7658B	27	37	29	-	10YR3/3暗褐色土	
F14	7658B	30	34	7	-	10YR3/4暗褐色土	
F15	7658B	23	28	17	-	10YR4/4褐色	
F16	7658B	24	32	22	-	10YR3/3暗褐色土	
F17	7658B	18	26	11	-	10YR4/4褐色	
F18	7658B	20	38	2	-	10YR4/4褐色	
SD19	7658B	26	130	8	N-78'-W	10YR4/4褐色	
F20	7658B	24	38	20	-	10YR3/3暗褐色土	
SD21	7658B	33	82	13	N-79.5'-W	10YR4/4暗褐色土	
SD22	7658B	40	49	5	N-17'-E	10YR4/3にぶい黄褐色	
F23	7658B	27	34	24	-	10YR2/3黒褐色土	
SD24	7658B	18	56	8	N-85.5'-W	10YR3/3暗褐色土	
SD25	7658B	164	423	17~19	N-18.5'-E	10YR3/3にぶい黄褐色	
F26	7659A	27	32	15	-	10YR4/3にぶい黄褐色	
F27	7659A	38	54	16	-	10YR4/3にぶい黄褐色	
SD28	7659A	50	208	18	N-80.5'-W	10YR4/3にぶい黄褐色	
F29	7659A	32	33	35	-	10YR3/3暗褐色土	
SD30	7659A	29	96	19	N-76.5'-W	10YR3/3暗褐色土	
F31	7659A	36	38	-	-	10YR3/3暗褐色土	
F32	7659A	28	52	12	-	10YR3/3暗褐色土	
SD33	7659A	40	101	4~15	N-21.5'-E	10YR3/3暗褐色土	
SD34	7659A	36	402	9	N-70'-W	10YR3/3暗褐色土	
F35	7659A	44	44	5	-	10YR3/3暗褐色土	
SD36	7659A	45	80	12	N-87.5'-W	10YR3/4暗褐色土	
F37	7659A	16	29	12	-	10YR3/4暗褐色土	
F38	7659A	35	38	6	-	10YR3/3暗褐色土	
F39	7659A	40	52	14	-	10YR3/3暗褐色土	
F40	7659A	30	34	39	-	10YR3/3暗褐色土	
F41	7659A	28	38	35	-	10YR4/3にぶい黄褐色	
F42	7659A	32	44	23	-	10YR3/3暗褐色土	
SD43	7659A	32	113	1~7	N-28.5'-E	10YR3/3暗褐色土	
F44	7659A	26	30	28	-	10YR3/3暗褐色土	
F45	7659A	31	36	12	-	10YR3/4暗褐色土	
SD46	7659A	54	264	1~16	N-84.5'-W	10YR4/4褐色	
F47	7659A	32	44	18	-	10YR2/3黒褐色土	
SD48	7659A	32	52	11	N-83'-W	10YR3/3暗褐色土	
SD49	7559C	32	162	4~5	N-67'-W	10YR3/4暗褐色土	
F50	7659A	46	48	26	-	10YR2/2黒褐色土	遺物 1
F51	7659B	21	38	6	-	10YR3/4暗褐色土	
F52	7659B	24	45	6	-	10YR3/4暗褐色土	
F53	7659B	28	104	10	-	10YR3/4暗褐色土	
F54	7659B	40	40	40	-	10YR3/4暗褐色土	
SK55	7659B	54	60	35	-	10YR3/4暗褐色土	
SD56	7659B	76	282	13~2	N-88'-E	10YR4/4褐色	
F57	7659B	38	39	37	-	10YR3/3暗褐色土	遺物 2・3
F58	7659B	34	38	45	-	10YR3/3暗褐色土	
SD59	7659B	56	656	7~26	N-77.5'-W	10YR4/4褐色	
F60	7659B	13	22	8	-	10YR2/3黒褐色土	
SK61	7659B	42	92	27	-	10YR2/3黒褐色土	
SD62	7659B	42	252	11~14	N-26'-E	10YR4/4褐色	
SD63	7659B	28	222	4~7	N-21.5'-E	10YR4/4褐色	
SD64	7559D	44	115	11	N-88.5'-W	10YR4/4褐色	
F65	7559D	22	26	22	-	10YR3/3暗褐色土	
SD66	7559D	37	156	11	N-89'-E	10YR4/4褐色	
SD67	7559D	72	264	6~12	N-85'-E	10YR4/4褐色	
F68	7559D	30	32	32	-	10YR3/4暗褐色土	
SD69	7559D	38	126	8	N-78'-W	10YR4/4褐色	
F70	7559D	22	32	9	-	10YR4/4褐色	
F71	7559D	44	48	7	-	10YR2/4暗褐色土 10YR4/6褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
SK72	7559D	52	82	17	-	10YR2/4暗褐色土 10YR4/6褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
SD73	7559C, D	40	442	13	N-77'-W	10YR3/4暗褐色土	遺物 4
F74	7559C, D	29	53	9	-	10YR4/6褐色土 10YR4/6褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
F75	7559C	26	38	8	-	10YR3/4暗褐色土	
SD76	7559D	28	120	14	N-87'-W	10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
77	溝溝	-	-	-	-	-	
SD78	7550D, 59C	182	182	6~10	N-71'-W	10YR3/3にぶい黄褐色 底面に 10YR4/6褐色土 (地山土) 大粒	
SD79	7559C	286	286	7	N-61'-W	10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土 (地山土) 中粒 20%含む	
SK80	7559C	49	49	29	-	10YR3/3暗褐色土 底面に 10YR4/6褐色土 (地山土) 大粒	

表 2-2 遺構観察表

遺構番号	地底	幅 (短軸 cm)	長さ (長軸 cm)	深さ (cm)	方向	土色	備考
SD01	7559C	30	88	4	N-23.5°-E	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 中粒 20%含む	
SK02	7559C	68	132	5~7	-	10YR/4 暗褐色土	
SD03	7559C	31	102	4~7	N-80°-W	10YR/4 暗褐色土	
SD04	7559D	38	117	8~5	N-74°-W	10YR/4 暗褐色土	
SK05	7559D	70	96	13~21	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
SD06	7559D	50	134	5	N-87.5°-W	10YR/3 暗褐色土	
SK07	7559D	96	116	30~20	-	10YR/3 暗褐色土	
P08	7559D	32	36	21	-	10YR/4 暗褐色土	
SD09	7559D	43	362	4~6	N-77°-W	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
SK09	7559D	96	101	75	-	10YR/3 黄褐色土	
P09	7559D	14	20	5	-	10YR/4 暗褐色土	
SK02	7559D	98	112	72	-	10YR/2 黒褐色土	遺物 12・13
SD03	7559D	33	96	5	N-7°-E	10YR/4 暗褐色土	
P04	7559C	31	48	8	-	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
P05	7559C	35	38	19	-	10YR/4 暗褐色土	
SD06	7559C	26	180	10	N-72.5°-W	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 中粒 40%含む	
SD07	7559C	38	64	6	N-17°-E	10YR/2 黒褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 30%含む	
SD08	7559C	20	58	5	N-76°-W	10YR/3 暗褐色土	
SK09	7559C	66	96	83	-	10YR/2 黒褐色土	
SD100	7559C	27	52	5	N-79°-W	10YR/2 黒褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 30%含む	
P101	7559C	14	23	10	-	10YR/2 黒褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 30%含む	
SD102	7559C-5A0	37	190	5~7	N-84°-W	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 40%含む	
SK103	7559C	64	66	19	-	10YR/2 黒褐色土	
P104	7559C	36	46	14	-	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 30%含む	
SD105	7558D	31	116	4	N-78.5°-W	10YR/4 暗褐色土	
P106	7558D	36	40	39	-	10YR/4 暗褐色土	
P107	7558D	30	48	20	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 10%含む	
P108	7558D	27	32	26	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 10%含む	
P109	7558D	30	32	33	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 10%含む	
SD110	7558D	40	292	4~7	N-20.5°-E	10YR/3 にぶい黄褐色土 よくこなれている	
P111	7558D	28	28	27	-	10YR/3 にぶい黄褐色土	
SD112	7558D	35	176	7~25	N-17°-E	10YR/4 褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 中粒 50%含む	
SK113	7558D	78	91	22	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 30%含む	
SK114	7558D	22	58	6	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 40%含む	
SD115	7558D	32	62	8~11	N-14.5°-E	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 40%含む	
SD116	7558D	27	96	5~6	N-76.5°-W	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 40%含む	
P117	7558D	40	47	14	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 20%含む	
SD118	7558D	42	102	11	N-68.5°-W	10YR/4 暗褐色土	
SD119	7558D	54	252	14	N-73.5°-W	10YR/4 暗褐色土	
P120	7558D	24	34	19	-	10YR/4 暗褐色土	
P121	7558C	36	40	36	-	10YR/3 にぶい黄褐色土	
SD122	7558C	38	232	9~10	N-11°-E	10YR/3 にぶい黄褐色土	
P123	7558C	30	30	17	-	10YR/3 にぶい黄褐色土	
P124	7558C	24	27	24	-	10YR/3 にぶい黄褐色土	
SK125	7558C	14	22	12	-	10YR/3 にぶい黄褐色土	
P126	7558B	54	58	13	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 40%含む	
SD127	7558B	32	396	5~7	N-82.5°-W	10YR/4 暗褐色土	
P128	7558B	34	46	14	-	10YR/4 暗褐色土	
SK129	7558B	46	66	7	-	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 10%含む	
P130	7558B	28	30	17	-	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 40%含む	
P131	7558B	22	30	8	-	10YR/4 暗褐色土	
P132	7558B	20	24	12	-	10YR/4 暗褐色土	
P133	7558B	31	32	33	-	10YR/4 暗褐色土	
P134	7558B	28	43	34	-	10YR/4 暗褐色土	
P135	7558B	28	34	34	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 中粒 10%含む	
SK138	7558B	80	96	89	-	10YR/3 にぶい黄褐色土	
SD137	7558B	26	62	9	N-8°-E	-	
SD138	7558A	63	338	17	N-80°-W	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 小粒 20%含む	遺物 7
SD139	7558A	84	467	15	N-8°-E	10YR/4 暗褐色土	
SK140	7558A	72	90	78	-	10YR/2 黒褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 まれに含む	
SK141	7558B-5A	66	71	82	-	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 40%含む	
P142	7558B	18	18	13	-	-	
P143	7558B	42	58	24	-	10YR/3 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 20%含む	
P144	溝底	-	-	-	-	-	
SD145	7559A	274	978	5~11	N-13.5°-E	10YR/4 暗褐色土 10YR/6 褐色土 (地山土) 大粒 40%含む	
SD146	7559B	26	94	18	N-79.5°-W	-	
SK147	溝底	-	-	-	-	-	
SD148	溝底	-	-	-	-	-	
P149	7558A	34	43	17	-	10YR/3 にぶい黄褐色土 砂質土	
SK150	7558A	38	92	16	-	10YR/3 にぶい黄褐色土 砂質土	
P151	7558A	52	57	7	-	10YR/3 にぶい黄褐色土 砂質土	
P152	7558A	22	26	18	-	10YR/3 にぶい黄褐色土 砂質土	
SK153	7559C	44	96	78	-	10YR/4 暗褐色土 砂質土	
P154	7559C	30	42	20	-	10YR/4 暗褐色土 砂質土	
P155	7559C	36	40	7	-	10YR/4 暗褐色土 砂質土	
SD156	7559D	52	148	6	N-85.5°-W	10YR/4 暗褐色土	
SK157	7559D	79	154	82	-	10YR/4 暗褐色土 砂質土 地山ブロック含む	
SD158	7559D	38	86	9	N-76°-W	10YR/4 暗褐色土	遺物 8
P159	7559D	12	28	11	-	10YR/3 にぶい黄褐色土	
SK160	7559D	84	90	65	-	10YR/4 暗褐色土 砂質土	遺物 9



## 第4章 自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

## 1. はじめに

本報告では、富山市内の遺跡から検出された畑跡について、生産物の痕跡を検討する目的で、花粉分析と、種実遺体分析を実施する。また、時期不明の掘立て柱建物に関する情報を得る目的で、放射性炭素年代測定、花粉分析、種実遺体分析を実施する。

## 2. 試料

分析試料のうち、東壁の3点（東壁1、東壁2、東壁3）は畑跡の土壌である。これらは花粉分析と、種実遺体分析を実施する。南壁1、No.90 底面土サンプル、No.140 底面柱痕サンプル土、No.141 底面土サンプルの4点は、時期不明の掘立柱建物跡のピット内土壌である。これら4点について、放射性炭素年代測定を実施する。また、南壁1は、花粉分析と、種実遺体分析も実施する。

## 3. 分析方法

## (1) 放射性炭素年代測定

分析試料はAMS法で実施する。土壌に塩酸(HCl:1mol/L)を加えて加温し、炭酸塩等酸可溶成分を除去する(HCl処理)。試料を燃焼し、炭素を燃焼させて生成し、二酸化炭素として回収する。二酸化炭素を鉄を触媒とし水素で還元することによって、グラファイト化する。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1等)の測定も行う。

$\delta$  13Cは試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver and Polach, 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4(Bronk, 2009)、較正曲線はIntCal20(Reimer et al., 2020)である。

## (2) 花粉分析

分析は、試料約20gを秤量し、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mmの篩による篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.2)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡で同定・計数する。

## (3) 種実遺体分析

土壌試料から炭化種実等を分離・抽出するために、試料各300gを常温乾燥後、水を満たした容器内に投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(約20回)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後、水に浮いた試料(炭化物主体)と水に沈んだ試料(岩片主体)を、それぞれ粒径4~0.5mmの篩に通し、粒径別に常温乾燥させる。水洗・乾燥後の試料を

双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実の他、主に径1mm以上の炭化材を抽出する。

抽出物は、炭化材主体、岩片主体、植物片の重量を一覧表で示す。分析後は、抽出物を容器に入れて保管する。

#### 4. 結果

##### (1) 放射性炭素年代測定

結果を表1、図1に示す。同位体補正を行った値は、南壁1が $2150 \pm 20\text{BP}$ 、No.90底面土サンプルが $2270 \pm 20\text{BP}$ 、No.140底面柱痕サンプル土が $1840 \pm 20\text{BP}$ 、No.141底面土サンプルが $1800 \pm 20\text{BP}$ である。

暦年較正は、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、その後訂正された半減期(14Cの半減期 $5730 \pm 40$ 年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。2 $\sigma$ の値は、南壁1がcalBC 351 ~ calBC 56、No.90底面土サンプルがcalBC 396 ~ calBC 209、No.140底面柱痕サンプル土がcalAD 128 ~ calAD 243、No.141底面土サンプルがcalAD 209 ~ calAD 333である。

##### (2) 花粉分析

結果を表2に示す。分析を行った4点ともに、花粉・胞子化石がほとんどみられない。分析残渣も少なく、そのほとんどが微粒炭である。

##### (3) 種実遺体分析

結果を表3に示す。4試料1.2kgを洗い出した結果、炭化材主体0.005g、岩片主体5.36g、植物片0.006gが検出された。炭化種実および同定可能な炭化材は確認されない。

#### 5. 考察

放射性炭素年代測定の結果、2点は紀元前4世紀~2世紀頃、2点は2世紀~3世紀頃を示し、近世とされる遺構の年代観より古い。分析対象とした土壌は、目視できる炭化物が認められず、色調からも炭素が少ないと考えられたため、塩酸処理のみ行っている。このため年代値は、土壌に含まれるフミン酸等の腐植酸や微粒炭を含むヒューミンに由来する可能性が考えられる。測定値をみると、遺構の年代観よりも明らかに古く、遺構埋積土の母材となった土壌に由来する年代値が得られている可能性が考えられる。

また、花粉分析・種実遺体分析では、花粉・胞子化石はほとんど検出されず、種実遺体も検出されなかった。これらは、好気的環境下におかれると、酸化や土壌微生物によって分解・消失しやすい。烟跡とされていることから、耕耘によって、土壌が好気的な状況に晒され、残存しなかったと思われる。なお、種実や木材は火熱を受けて炭化すると、好気的環境下でも残存しやすいが、今回の結果では、炭化種実、炭化材も未検出であった。花粉分析の残渣は少なく、微粒炭がわずかに認められたのみである。検出された微粒炭は、光を通さず、かつシャープな割れ口をもつ典型的な微粒炭である(山野井,1996)。微粒炭の成因として、人間による燃焼活動が影響する(松井・近藤,1992、山野井,1996)。このことから、検出された微粒炭は、過去に行われた何らかの人間活動に由来すると思われる。

表1. 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料名	性状	処理方法	補正年代 BP (暦年較正用)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代			Code No.	
					年代値				確率%
					$\sigma$	$2\sigma$			
南壁1	土塊	HCl	2150 ± 20 (2148 ± 23)	-13.12 ± 0.29	$\sigma$	cal BC 344 - cal BC 320	2293 - 2269 calBP	19.2	IAA-231122
						cal BC 293 - cal BC 151	2152 - 2100 calBP	45.8	
						cal BC 129 - cal BC 123	2078 - 2072 calBP	3.3	
					$2\sigma$	cal BC 351 - cal BC 295	2300 - 2244 calBP	25.0	
						cal BC 209 - cal BC 95	2158 - 2044 calBP	67.5	
						cal BC 74 - cal BC 56	2023 - 2005 calBP	3.0	
No. 90 底面土 サンプル	土塊	HCl	2270 ± 20 (2269 ± 24)	-14.92 ± 0.20	$\sigma$	cal BC 391 - cal BC 359	2340 - 2308 calBP	43.8	IAA-231123
						cal BC 276 - cal BC 261	2225 - 2210 calBP	14.7	
						cal BC 214 - cal BC 234	2193 - 2183 calBP	9.8	
					$2\sigma$	cal BC 396 - cal BC 351	2345 - 2300 calBP	48.0	
						cal BC 292 - cal BC 209	2241 - 2158 calBP	47.5	
						cal AD 134 - cal AD 138	1817 - 1812 calBP	2.9	
No. 140 底面柱状 サンプル土	土塊	HCl	1840 ± 20 (1844 ± 23)	-13.47 ± 0.20	$\sigma$	cal AD 162 - cal AD 189	1788 - 1762 calBP	18.7	IAA-231124
						cal AD 201 - cal AD 239	1749 - 1711 calBP	46.7	
					$2\sigma$	cal AD 128 - cal AD 243	1823 - 1708 calBP	95.4	
						cal AD 229 - cal AD 253	1722 - 1698 calBP	32.8	
						cal AD 290 - cal AD 320	1660 - 1631 calBP	35.5	
						cal AD 209 - cal AD 260	1741 - 1691 calBP	47.8	
No. 141 底面土 サンプル	土塊	HCl	1800 ± 20 (1800 ± 24)	-13.28 ± 0.18	$\sigma$	cal AD 279 - cal AD 333	1672 - 1617 calBP	47.7	IAA-231125
					$2\sigma$				

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 校正した測定値は、測定偏差 $\sigma$  (測定値の68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。

4) HClは酸処理のみを示す。

5) 暦年の計算には、Oxcal v4.4を使用

6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用

7) 較正データセットはIntCal20を使用。

8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

9) 統計的に真の値が入る確率は、 $\sigma$ が68.2%、 $2\sigma$ が95.4%である

図1. 暦年較正結果

OxCal v4.4.4 Bronk Ramsey (2021) r5 Atmospheric data from Reimer et al (2020)

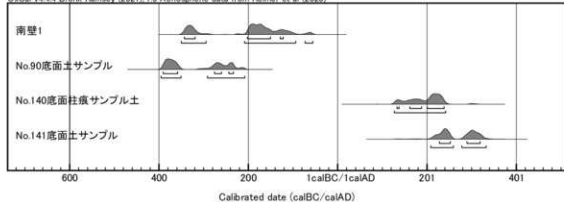


表2. 花粉分析結果

	東壁1			南壁
	1	2	3	1
木本花粉				
マツ属	1	-	-	-
シダ植物胞子				
他のシダ植物胞子	1	2	1	-
合計				
合計	2	2	2	-

表3. 種実遺体分析結果

種類	粒径	東壁			南壁	備考
		1	2	3	1	
炭化材主体	1-0.5mm	0.002			-	0.003 乾重(g)
岩片主体	1-0.5mm	1.73	1.26	0.21	2.16	乾重(g)
植物片		0.004	-	0.002	-	乾重(g)
分析量		300	300	300	300	湿重(g)

## &lt;引用文献&gt;

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.

松井 健・近藤鳴雄, 1992, 土の地理学—世界の土・日本の土—, 朝倉書店, 122p.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk R. C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon J., Turney C., Wacker L., Adolphi F., Büntgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Köhler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A. and Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), p.725-757.

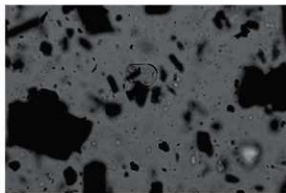
Stuiver M., & Polach ML., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of  $^{14}\text{C}$  Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.

山野井 徹, 1996, 黒土の成因に関する地質学的検討. *地質学雑誌*, 102, 526-544.

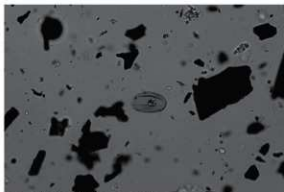
## 顕微鏡写真 | 花粉化石



1. マツ属と微粒炭(東壁1)



2. シダ類胞子と微粒炭(東壁2)



3. シダ類胞子と微粒炭(東壁1)



4. 微粒炭(南壁1)

50  $\mu\text{m}$ 

1-4

## 第5章 総括

### 第1節 近接する平成2年の調査から

平成2年に今回調査区の北30mの位置で調査が行われている。これらの調査では古墳時代の土器やピット等が検出しており、今回の調査区でも同様の結果が予想されていた。(第14図)

過去の調査では耕土下面が標高4.5m前後、検出面が標高4.3m以下で遺構の深さは30cmほどが多数を占めていた。対して今回の調査区では耕土下面が標高5.0m前後で検出面は標高4.8m前後、深さが50cm以上を測る例外的な9基の遺構を除いた遺構の平均深さは15.6cmである。(第13図)過去の田面高が不明であったが、今回の調査では畝痕と考えられる溝がほぼ全面に検出できたことから、最終的に耕作地として削平された深さは遺構深度の差である15cm程度と推定できる。新田調査地の検出面の標高差は0.5mでこれにより多く削平を受けた15cmをプラスした65cmが南北30mを隔てた調査区の元来の高低差と考えられる。

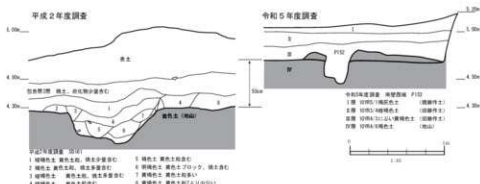
旧調査地と今回の調査地は現在の地表面の高さはさほど差がないことから寺島集落を含む当該地は大規模な削平を受けていることが窺える。

### 第2節 今年度の調査の結果

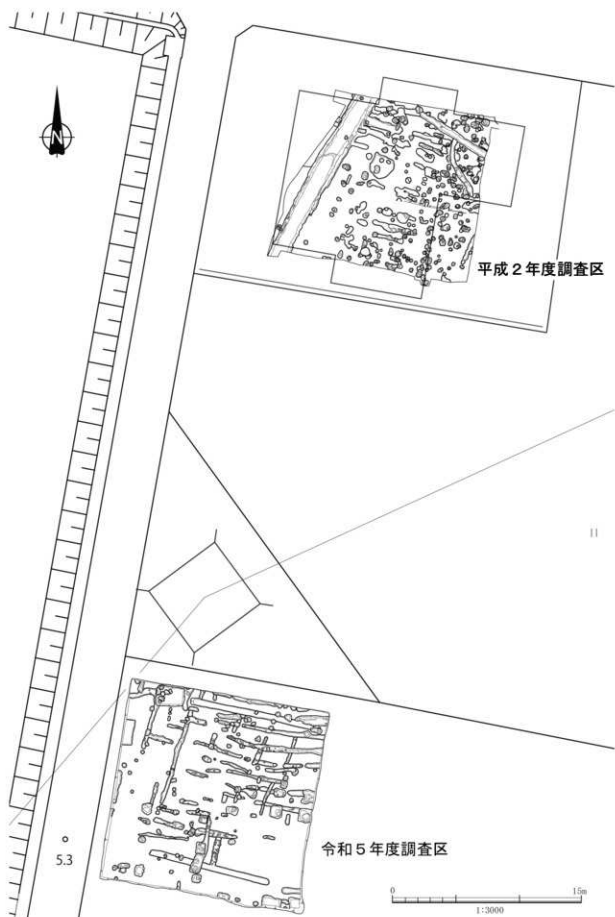
今回の調査ではピット73基、溝(畝痕)61条、土坑22基を検出した。これらの遺構には柵列2基・掘立柱建物1棟を構成する柱穴等が含まれる。出土した遺物は極めて少ない。遺構出土とするものも遺構の埋積土に伴うものでローリングが進んでおり遺構の時期を直接表すものではない。遺物の時期としては8~9世紀代に取まるだろう。平成2年の調査では古墳時代の土器も出土しているが今回の調査では古墳時代の遺構・遺物は認められなかった。

柵列・掘立柱建物については配置から社の可能性があることを指摘した。時期については遺物から詳細を得ることはできなかった。しかし、遺構の古い要素として掘立柱であること、周辺で出土している遺物が8~9世紀代であることから古代の建物である可能性がある。一方、時代が下る要素として埋土がⅡ層と同質であることが挙げられる。これらは矛盾した事柄であるが、柱穴断面に抜き取り痕跡や柱痕跡が見当たらず、柱の痕跡が最底面でのみでしか確認できなかったことから、検出した掘方が後世の柱抜き取り痕跡である可能性を指摘する。ただし、明治44年『2万正式図』(大日本帝國陸地測量部)では当該地に建物等は確認できない。このことから近代の建物の可能性は低い。SA153-2(SK157)で掘方に認められる液状化の時期も確定要素にはならず、堆積状況・深度など考慮すべき点は多くあり、結論はさらに周辺の調査を待ちたい。

(中井)



第13図 調査標高比較図 (S=1/40)



第14図 平成2年度調査区・令和5年度調査区合成図 (S=1/3000)

## 引用・参考文献

- 中世岩瀬遺跡調査研究グループ2004「海中から中世岩瀬遺跡を探る」15年度海底探査報告書」富山市日本海文化研究所報」第33号 富山市日本海文化研究所
- 富山県富山農林振興センター・富山市教育委員会2012「富山市百塚住吉D遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2014「小竹貝塚発掘調査報告書」
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2015「打出遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会1974「富山市小竹貝塚範囲確認調査報告書」
- 富山市教育委員会1987「長岡杉林遺跡」
- 富山市教育委員会1996「富山市千原崎遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会1998「史跡北代遺跡発掘調査概要Ⅱ」
- 富山市教育委員会1999a「富山市四方背戸割遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会1999b「富山市千原崎遺跡発掘調査概要」
- 富山市教育委員会・富山市埋蔵文化財調査委員会1999「富山市四方荒屋遺跡発掘調査概要」
- 富山市教育委員会2000「富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会・環境事業閉富山建設事務所2003「富山市長岡八町遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2004「富山市打出遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2006a「富山市四方背戸割遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2006b「富山市打出遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2008a「富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2008b「富山市八町Ⅱ遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2009「富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2011「富山市内遺跡発掘調査概要Ⅴ 一砂川カタダ遺跡・今市遺跡一」
- 富山市教育委員会2012「富山市百塚遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2013a「富山市四方背戸割遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2013b「富山市今市遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2014「富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2015「富山市八ヶ山A遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2018「富山市内遺跡発掘調査概要ⅩⅨ 一今市遺跡 越中丸山焼陶器跡一」
- 富山市教育委員会2022「富山市番神山横穴墓群・貝羽山古墳群発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会2023「富山市四方背戸割遺跡・四方荒屋遺跡発掘調査報告書」
- 西井龍儀・藤田富士夫1976「貝羽山丘陵周辺の先土器・縄文時代草創期の遺跡について」『大境』第6号 富山考古学会
- 根津明義2006「越中国射水郡における諸郷の所在について」『富山史壇』第149号 越中史壇会
- 古川知明2005「神通川底出土遺物のこと」『草島校下の歴史』第50号 草島校下郷土史会
- 古川知明・野垣好史・小林高太・瀬沼優介2010「富山藩主前田家墓所長岡御御廟所基礎調査報告書」富山市考古資料館紀要」第29号 富山市考古資料館
- 堀沢祐一1996「北代加茂下Ⅲ遺跡の縄文時代の掘立建物について」『富山市考古資料館報』№30 富山市考古資料館
- 堀沢祐一1997「縄文時代中期掘立建物の一考察 一北代加茂下Ⅲ遺跡掘立建物の検討一」富山市考古資料館紀要」第16号 富山市考古資料館
- 辻本和美2010「新庄遺跡掘立建物跡S85303をめぐって」『京都府埋蔵文化財論集 第6集 一創立30周年記念誌一(附)京都府埋蔵文化財センター」
- 富山県埋蔵文化財センター1993「任海遺跡 吉倉A遺跡 吉倉B遺跡」富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告書(3)」
- 富山県埋蔵文化財センター1994「吉倉B遺跡」富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告書(4)」



調査区全景 垂直写真（上が東）





SB141 垂直(上が北)



SB141(南から)



SA99(東から)



SK157堆積状況(北から)



SK157と噴砂(液状化痕 北から)



東壁 (S056・59部分 西から)



北東部溝完掘状況(東から)



SK99完掘状況(北から)



SK99堆積状況(南から)



SK90完掘状況(北から)



SK90堆積状況(西から)



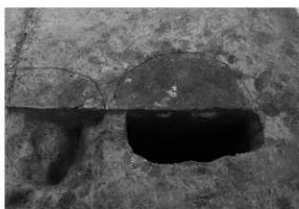
SK92完掘状況(北から)



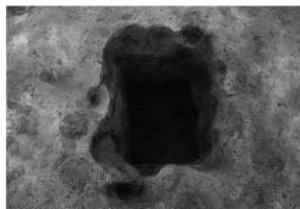
SK92堆積状況(北西から)



SK141完掘状況(北から)



SK141堆積状況(西から)



SK136完掘状況(北から)



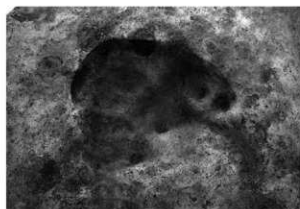
SK136堆積状況(北から)



PI26完掘状況(北から)



PI26堆積状況(東から)



SK113完掘状況(北から)



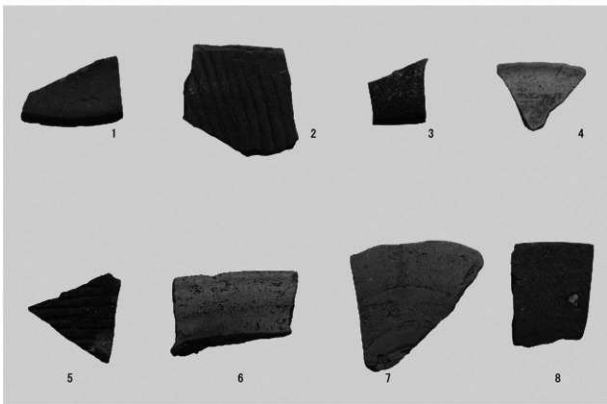
SK113堆積状況(南から)



SK103完掘状況(北から)



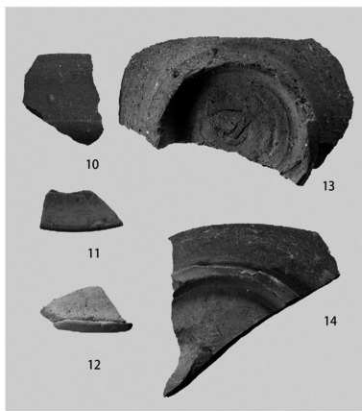
SK103堆積状況(西から)



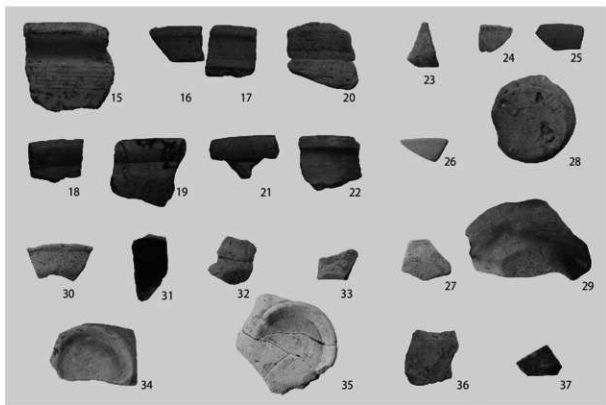
遺構出土遺物 1



遺構出土遺物 2



その他出土遺物(須恵器)



その他出土遺物(その他)



# 報告書抄録

ふりがな	とやまし いまいちいせき はつくつちょうさほうこくしよ							
書名	富山市 今市遺跡 発掘調査報告書							
副書名	中央富山線(No.10～No.15)鉄塔工事に伴う発掘調査							
シリーズ名	富山市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ名番号	114							
編著者名	堀内大介(富山市教育委員会埋蔵文化財センター) 中井英策(日本海航測株式会社) パリオ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	日本海航測株式会社							
所在地	〒921-8042 石川県金沢市泉本町2-157-1							
発行機関	富山市教育委員会埋蔵文化財センター							
所在地	〒939-2798 富山県富山市婦中町速星754 TEL076-465-2146							
発行年月日	西暦 2024年3月25日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
いまいちいせき 今市遺跡	とやまけほ 富山県 とやまし 富山市 てらしま 寺島	16201	2010023	36°	137°	20230515	256 m <sup>2</sup>	鉄塔建 替工事
				44′	11′	?		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
今市遺跡	集落	平安	ピット73基 溝(歟痕)61条 土坑22基	須恵器・土師器		新田2時期の畠		
		時期不明	柵列・掘立柱建物	なし		柵に囲まれた建物・社か?		
要約	<p>当該地は旧神通川の流路痕に挟まれた氾濫原上の自然堤防に立地し、今市遺跡内の寺島集落内に位置する。寺島の名の由来は氾濫原の中に寺院を有する島状に浮かぶ微高地と捉えることができ、集落内での寺院にかかわる痕跡が期待された。</p> <p>調査ではピット73基、溝(歟痕)61条、土坑22基を検出した。遺構検出面は強く削平を受けた地山上での検出で遺物の出土は極めて希薄であった。わずかな遺物はいずれも耕作時の混入と判断できる層からの出土である。</p> <p>掘立柱建物は柵列(塙)等の配置から前庭または通路と考えられる柵または塙で囲まれた空間を擁する。遺物を伴わない。他の遺構に比較して例外的に深度がある。</p> <p>地山面から50 cm以下に液状化痕が認められ、一部の柱穴に液状化痕との切りあいがある。</p>							

富山市埋蔵文化財調査報告 114

富山市 今市遺跡  
発掘調査報告書

- 中央富山線 (No. 10 ~ No. 15) 鉄塔工事に伴う発掘調査 -

2024(令和6)年3月25日発行

発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター  
〒939-2798  
富山県富山市婦中町速星754番地  
(婦中行政サービスセンター本館3階)  
TEL 076-465-2146  
Fax 076-465-5032  
E-mail : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

編集 日本海航測株式会社  
〒921-8042  
石川県金沢市泉本町2-157-1  
TEL 076-243-0811

印刷 HAYASHI 株式会社